

10番合砂丈司でございます。通告に基づきまして、一般質問を行います。

平成28年台風10号豪雨災害から3年半が経過し、河川改修等復旧工事などが本格化し大きな節目をむかえております。

安家地区では、地域の復興と活性化には欠かせない中核的役割を担う複合施設の工事が、令和2年5月の完成を目指して進められているところであります。町長をはじめ、関係各位に感謝申し上げる次第であります。

まず、1点目は「安家地区複合施設の有効活用について」お伺いします。

現在の支所、生活改善センターや、公衆トイレ、バス待合所、消防屯所、安家診療所が一カ所に集約整備され、まさに、地域住民の利便性が向上するわけであります。

しかしながら、安家地区におきましては、この先を見据えた場合、人口減少、少子高齢化のため、地域づくりにおいても非常に厳しい状況となってきました。

私は、復旧工事の完了に向かい、人口減少に拍車がか

かり、さらに過疎化が進むのではと、危惧しています。そこで、ハード面の施設整備に合わせ、ソフト面の施策を充実させることが、地域の活性化を図るうえで重要であると考えます。

高齢者サロンの事業内容を拡充し、入浴機会の確保を図るためデイサービスのような福祉的サービスの提供や、コミュニティ醸成のための企画情報の提供等により、地域の方々が笑顔で安心して暮らしていけるよう、施設の運営管理に工夫が必要と思われまます。

人員配置を含めたソフト面の充実について、町ではどのような方針、方向性でその整備や活用をお考えか、町長の見解をお伺いします。

2点目は「道の駅の整備について」お伺いします。

岩泉町では、国道455号沿いの乙茂地区に「道の駅いわいずみ」と、三田貝地区に「道の駅三田貝分校」が整備され、岩泉町の観光案内や、地域の特産物販売などにより、交流人口の拡大と地域振興が図られてきており、岩泉町にとって、その効果は相当大きなものがあると考え

えております。

安家地区においては、県道7号久慈岩泉線があり、久慈市等沿岸北部から龍泉洞等への観光ルートになっています。

また、平成28年台風10号豪雨災害においては、多くの河川、道路が決壊しましたが、そのなかにあって、年々地区から御沢峠を經由してグリーンロードへつながる道が、岩泉町とほかの市町村をつなぐ重要な道路にもなったところでもあります。

安家には、安家洞、安家川、PT境界層などがあり自然の宝庫です。特に、全国的に有名なマツタケの生産地としても知られております。

このように、道の駅の趣旨に十分に沿った資源が豊富にありますので、交流人口の拡大と地域振興につなげるため、県道沿いに道の駅を整備する考えはないでしょうか。

東の玄関口からの来訪者は「道の駅いわいずみ」で、西の玄関口からの来訪者は「道の駅三田貝分校」で、北からの来訪者は仮称「道の駅あつか」で歓迎するという

構想を、ぜひとも実現させていただけないでしょうか。

町長の見解を伺います。

## 10番 合砂 丈司 議員の御質問にお答えします。

まず初めに、安家地区複合施設につきましては、様々な地域活動に有効活用が期待できるものであり、加えて、近年の大災害を教訓とし、備蓄倉庫や非常用電源設備等を備え、避難者の負担を軽減させる機能を併せ持つ避難施設にもなっております。

地域の活性化及び防災拠点として、地域において幅広く利活用することが重要と考えておりますことから、適正な管理ができる人員配置を行うなどソフト面の充実も図ってまいりますので積極的に利活用していただきたいと思っております。

また、安家地区複合施設が安家地区の皆様にとって、「地域での交流の場」、「健康づくりの場」、「生きがい活動」などの活動拠点として、地域の和を広げる場となり、この施設が、地域の団体のみな

らず、高齢者関係の事業所等も巻き込みデイサービスの取組の場ともなるよう、町も一緒になって取り組んでまいりますので御理解願います。

次に、道の駅の整備についてであります。本件については、十分な駐車場用地の確保や財源の問題、道路管理者との調整など、クリアすべき課題が多く、一朝一夕に成し遂げられるものではないと認識しておりますが、道の駅に類似する施設として、以前、地域から御要望をいただいていたおりました産直施設の整備につきましては、町といたしましても、災害からの復旧復興の観点から支援してまいりたいと考えておりますので、これまでの議論なども検証しつつ、いかに賑わいのある地域を創出できるか復旧の先を見据え、共に知恵を出し合いながら実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。